

## 6 地域共生社会の実現、障がい者の生涯学習の推進

### (1) プログラム開発の背景

国では、不登校や障がいなどの困難を抱える児童生徒の背景が多様・複雑であることから、学校への支援体制の強化や関係機関との連携協力による支援を進めている。

本道においても、小・中学校における不登校の児童生徒の在籍割合は、平成30年度に全国平均を上回り、家庭や関係機関と連携して実態をきめ細かに把握するとともに、児童生徒の自己肯定感を高めるための取組を支援していくこととしている。

のことから、道立青少年体験活動支援施設においても、不登校や障がいなどの困難を抱える児童生徒が、体験活動を通して自身と向き合うことができるプログラムを開発するものである。

### (2) 道及び道教委の主な関連施策

#### ・北海道教育推進計画 施策項目13 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実

不登校児童生徒へのきめ細かな支援を行うため、「児童生徒理解・教育支援シート」の活用や、学校内外での専門的な相談が受けられる窓口の周知徹底等により、教育支援センター、学校、家庭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童相談所、福祉関係機関、多様な教育機会を提供している民間の団体等が連携した地域ぐるみの支援体制の整備・充実を図ります。

#### ・第3次北海道生涯学習基本構想 視点2 1－（3）「子どもたちの居場所づくりの推進」

「子どもたちの中には、家庭や学校の中で孤独感を抱えたり、情報端末を媒介とした友人との薄いつながりしかつくれないなど、人間関係の形成に課題も見られることから、行政・学校と地域・NPO等が連携し、異年齢・異世代とつながる場や心を落ち着けられる居場所づくりに取り組むことが必要です。」

### (3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

<b>砂川</b>	<b>チャレンジアウトドア</b>
令和3年7月14日（水）～15日（木） (1泊2日)	まき割り、火おこし、野外炊飯、魚釣りなど
<b>森</b>	<b>ファミリーキャンプ</b>
令和3年8月21日（土）～22日（日） (1泊2日)	焚き火、野外炊事、夜の虫観察、 キャンプスイーツづくりなど
<b>北見</b>	<b>チャレンジキャンプ in ネイパル北見</b>
令和4年1月8日（土）～9日（日） (1泊2日)	書き初め、ドミノ、 スタンプを使った巻き物づくりなど
<b>厚岸</b>	<b>障がい者スポーツ交流会</b>
令和3年11月27日（土） (日帰り)	講話、ボッチャ体験、車いすバスケットボール体験、創作スポーツ体験など

# 学び続けるきっかけの場づくり チャレンジアウトドア

## 1 事業のねらい

障がいのある子どもとその保護者や関わりのある方を対象に、自然体験や生活体験などの活動をとおして、生涯に渡って学び続けようとする意識を高める。

## 2 事業の概要

- 期日 R3.7.14(水)～7.15(木) 1泊2日
- 対象 支援学級等に通う小学3年生～中学生
- 人数 4名
- 場所 ネイパル砂川 砂川遊水地
- 協力 石狩川振興財団

## 3 プログラム

	6:30	7:00	9:00	12:00	12:30	13:00	15:00	15:10	15:45	18:45	19:15	20:00	22:00		
14 日 (水)	集合場所：ネイパル砂川 集合時刻：15:00～								受付	出発の集い	キンドリングまき割り ファイヤースターターアオコシ 野外炊飯（カレーライス）	ペッドメイク	花火体験	入浴・自由	就寝
15 日 (木)	起床・清掃	朝食	晴天時：魚釣り 雨天時：ニュースポーツ レジンクラフト	昼食	別れの集い	解散場所：砂川遊水地管理棟（砂川市西5条南8丁目） 解散時刻：13:00（予定）									

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■生活体験の工夫

- ・衣食住にかかわる、起床、就寝、炊事、食事、入浴、洗面、ペッドメイク、荷物整理、清掃の体験を自分の力で行えるよう、学校の宿泊学習とリンクさせ、学校内での学びを継続できるよう配慮した。

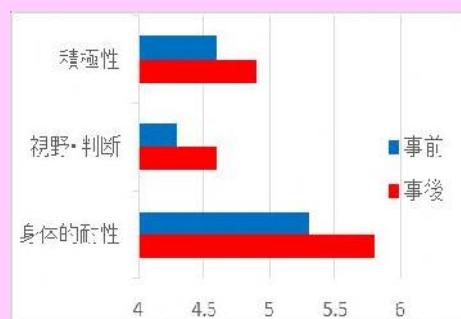
### ■生涯にわたって学び続けようとする意識の向上

- ・活動時間にゆとりを持つことで、様々な興味・関心に対応できるよう配慮した。また、じっくりと観察できる時間を設定することで、より深く生き物の特徴を調べられるようにした。その結果、「ひれの付け根が黄色」など「なんでだろう」という疑問を抱かせることでき、学びを継続させるきっかけを与えることができた。



食への関心を高める野外炊飯

## 5 事業の評価



観察を通したふりかえり活動

### ■簡易 IKR 調査による変化

- ・「身体的耐性」が 0.5P、「視野・判断」「積極性」が 0.3P 向上了。

### ■参加者の声

- ・火おこしは初めてなのに、火がついてうれしかった。
- ・魚がたくさん釣れて楽しかった。次はもっと大きな魚を釣りたい。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「積極性」が向上していることから、様々な体験を通して前向きに物事をとらえられるようになったと考える。視野・判断の向上から、自分で課題を見つけ、解決に向けて努力したことが伺える。学びを継続する視点からも本事業は有効であったと考える。

### ●参加校数の確保

複数校から参加者を募ることで、交友・協調、自己規制などの力も高め、学びを継続する意識を高めたい。



## 企画のポイント

新たな気づきを見つける環境づくりと、学びを継続させるための問題提起

# ファミリーキャンプ

## 1 事業のねらい

障がいのある人とその家族、障がない人とその家族が自然体験活動を共に行うことをとおして、体験の幅を広げるとともに、交流を深める。

## 2 事業の概要

- 期日 R3.8.21(土)～22(日) 1泊2日
- 対象 幼児～小学校3年生とその家族
- 人数 50名
- 場所 ネイパル森

## 3 プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目								開会式	ブレイブ アント設立	活動① たき火をしよう！	活動② キャンプ版づくり	夕食	活動③ 夜の面倒くさがり火で座談会	入浴	就寝準備	
2日目	7 起床	8 朝食	9 片付け	10 テント	11 キャンプスイーツづくり	12 活動④	13 閉会式									

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■誰もが安心して参加できる配慮

- ・手順表やしおりなどを作成し、活動の見通しを可視化するとともに、ボランティアスタッフに対して障がいのある子どもの支援方法に関する事前研修を行った。

### ■交流の幅を広げる自然体験活動

- ・テント設営や火起こしなど2家族単位で協力して行えるように、働き掛けをした。また活動③の「焚き火で座談会」では、スウェーデントーチを用い、参加者同士が和やかな雰囲気で話せるようにした。

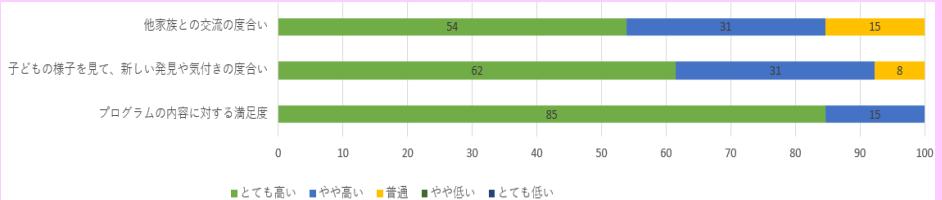


2 家族が協力する体験活動



炎を囲み、話しやすくする工夫

## 5 事業の評価



### ■アンケート調査結果

- ・プログラムの内容に対する満足度での肯定的な回答は 100%

### ■参加者の声

- ・みんなと遊んで楽しかった。また来たい。(子)
- ・火を囲みながら、大人だけで会話する時間がとても貴重でした。(親)

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 2家族単位で一緒に活動する場面を多く設けることによって、交流が深まり満足度が高くなった。
- 障がいのある方も安心して体験活動に取り組むことができるよう、引き続きケーススタディ等の研修を行うなどして、職員やボランティアスタッフの資質向上を図る。



## 企画のポイント

障がいの有無に関わらず、交流の幅を広げられるような、運営及びプログラムの設定

# チャレンジキャンプ in ネイパル北見

## 1 事業のねらい

支援学校や支援学級に通う児童・生徒が、仲間と様々な体験活動に取り組み、新たな気づきや交流の広がりを獲得し、将来に向け生き生きと過ごそうとする心を育む。保護者間の交流を深め、情報交換の機会を提供する。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.1.8(土)～9(日) 1泊2日
- 対象 支援学校等に通う小学生～高校生及とその家族
- 人数 6家族 15名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 まちの図工やさん「アトリエたねまき」

## 3 プログラム

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1/8 (土)						12:30～13:00 受付	受付	開会式	自己紹介 アイスブレイク	休憩	書き初めで自分 の○○を表現！	部屋準備 休憩	夕食	ドミノDE つながーる	入浴・自由	就寝	
1/9 (日)	起床・洗面	朝食	清掃点検	準備	スタンプ捺して 巻物づくり	閉会式 11:30解散											

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■参加者同士の関わりを大切にする活動の工夫

- ・大学生や、経験豊かな地域住民の支援のもと、参加者が他の家族とも気軽に関係づくりができるよう、自己紹介や全員で力を合わせるドミノなど、グループで楽しめる活動を多く取り入れた。

### ■達成感を味わわせる創作活動

- ・視覚優位な児童が多い実態を踏まえ、活動内容をスライドで表示し、児童が見通しをもって活動できるよう工夫することで、参加者が保護者と協力しながら作品づくりを失敗せずに取り組めるようにした。また、事前に講師と打ち合わせ、参加者の行動を予測し、対応等を綿密に打ち合わせた。



アイスブレイクで楽しく自己紹介



消しゴムスタンプづくり

## 5 事業の評価

### ■アンケートから

- ・「本事業に参加してよかったです」との項目では、児童保護者とともに100%が「とてもよかったです」「よかったです」と回答した。
- ・「諦めずに最後まで作品を完成させられたか」の項目では、「よくできた」が77%、「少しできた」が23%であった。

### ■参加者の声

- ・たくさんの友だちができた。また来たい。(子ども)
- ・書き初めのスタンプコラボは、予想以上に充実した内容だった。子どもの集中力が途切れる場面もあったが、なんとか完成にこぎつけることができた。(保護者)
- ・運営者や講師が子どもをほめてくれて嬉しかった。(保護者)

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 親子が協力して作品を作り上げる作業を通して、子どもは達成感を、保護者は子どもの新たな一面の気づきを得ることができた。また、保護者同士の交流も生まれ、事業後の関係づくりまで発展させることができた。
- コロナウィルス感染対策の関係から、非接触型の活動を中心としたため、子どもたち同士の関係づくりが十分には行えなかつたことが課題となった。



## 企画のポイント

地域の方・ボランティア・保護者・児童が相互に関わり合う、様々な活動と成功体験

障がいのある人もない人も一緒に楽しめるスポーツを

# 障がい者スポーツ交流会

## 1 事業のねらい

障がいのある方とない方が一緒に楽しめるスポーツを通して、障がいに対する理解を深めるとともに、多様性を認め合う社会づくりの醸成を図る。

## 2 事業の概要

- 期日 R.3.11.27(土) ■場所 厚岸町B&G海洋センター体育館
- 対象 小学3年生～中学3年生 ■人数 12名
- 講師 高瀬 勝洋 氏(釧路市社会福祉協議会事務局長)
- 協力 武田 豊 氏(車いすバスケットボールFREEZZ代表)
- 社会福祉法人厚岸町社会福祉協議会  
車いすバスケットボールFREEZZ メンバー

## 3 プログラム

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
11月27日(土)	受付	開会式	講演 障がい者とは	みんなでできる パンラボ	昼食	パラスポーツ体験 ◎車いすバスケットボール ◎ポッチャ		フリートーク (ふりかえり)	閉会式

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■「共生社会」を考える

- ・パラリンピアンやパラリンピックコーチの経験者など、パラスポーツと社会福祉分野の経験が豊かな講師による講話とスポーツ交流を通して、パラスポーツの現状や障がいについて学びが深まるようにした。
- ・ポッチャや車いすバスケットボール、鈴入りボールを打ち合う卓球バレー、目かくしをして行うボイスパスゴールなどのパラスポーツを通して障がいのある人もない人も同じルールで一緒に楽しめることを実感できるようにした。

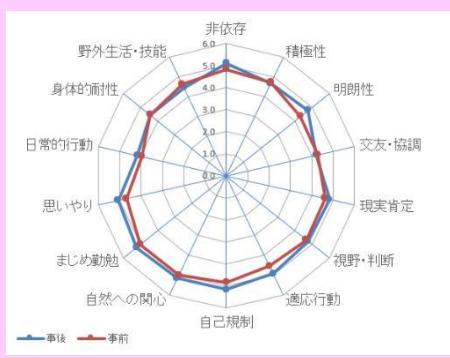


チームで声をかけ合って、  
ボイスパスボールを行う子ども達



車いすバスケットボールの  
ゲームを行う参加者

## 5 事業の評価



## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「明朗性」「適応行動」「思いやり」等が向上したことから、障がいの有無に関係なく、すべての人にとって生きやすい社会にするためには、他者を思いやり、互いに支え合うことが大切であるという「共生社会」のあり方について理解を深めることができたと考えられる。
- 「積極性」「交友・協調」が低下したことから、指導者主体の活動から、参加者自身がルールや活動を創意工夫できる能動的なプログラム等を取り入れる必要がある。

### ■IKR調査による変化

- ・「明朗性」「適応行動」「思いやり」が0.4P向上
- ・「積極性」「交友・協調」が0.1P低下

### ■参加者の声

- ・「こうすればみんなができる」などの前向きに考えることが大切だとわかった。
- ・パラスポーツの楽しさをたくさん的人に知ってもらいたいと感じた。



## 企画のポイント

「共生社会」実現にむけて自身にできることを考えられるように、パラスポーツの講話・体験を取り入れたプログラム